東京の産業と教育

会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

「人材育成は産業界にとっても重要な課題」

東京商工会議所　総務統括部長
小　林　治　彦

商工会議所は、「商工会議所法」に基づく地域総合経済団体であり、地区内の商工業者を会員として、商工業の発展や社会一般の福祉の増進に資することを目的に活動しています。全国には、北海道から沖縄まで514の商工会議所があり、東京商工会議所は1878年に創設され、現在は、東京23区内を管轄し、約75,000件の会員企業から構成されています。

活動内容としては、国や東京都などへの「政策提言活動」をはじめ、企業経営の課題を解決するための「経営支援活動」、「国際活動」などを展開しています。

皆様ご高承のとおり、日本の企業数の99.7％が中小企業であり、企業で働く従業員の約7割が中小企業につとめています。こうした状況もあり、私どもの会員の大多数は中小・零細企業です。東京商工会議所では、毎年、中小企業の経営課題について、会員企業からアンケートを実施していますが、今年の調査結果でも、「販売･受注量の減少」などに加えて、「求めている人材の不足」が課題の3位となりました。また、今後取り組みたい対策の3番目には「人材の確保・育成の見直し、強化」が、さらには技術について不足している項目として「技術者の育成」が1番目に入りました。今年の調査結果に限らず、中小･零細企業にとって「人材」に関わる課題・悩みは常に上位を占めています。

東京商工会議所においては、こうした状況に対応するため、重要経済問題について常時調査研究する22の委員会を設置しています。中小企業問題全般について主に国・東京都へ要望・提言をしている「中小企業委員会」をはじめ、昭和63年からは、日本のものづくりの重要性に着眼し「ものづくり委員会」を、さらに平成3年からは、企業側からみた教育はどうあるべきか検討する「教育委員会」を設置し、産業界として検討を続けています。

現在の岡村会頭の活動方針の中には、「現場主義」の徹底があり、企業の「生の声」を常に拾うよう努めています。経営者の方々からは、日本の中小企業のもつ技術力をしっかり伝承していきたいが「後継者がいない」、「なかなか若い人が入社してくれない」、「専門学校を卒業したが就職先がみつからない」など、多数の意見をいただいております。

東京都産業教育振興会におかれましては、会の目的からしても、産業界・教育界・行政が一体となって教育の改善・進歩を図るため、活動されています。私どもも、産業界からみた教育問題の重要性に鑑み、皆様と十分連携しながら、取り組んでまいりたいと存じますので、ご理解・ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。最後になりますが、東京は2020年のオリンピック・パラリンピックを招致しようと名乗りを上げています。1964年時のように、若者に「夢」や「希望」を与える絶好の機会でもあり、東京商工会議所でも応援しています。皆様方のご支援・PRも併せてお願い申し上げます。

〈実践報告〉

本校における大学進学支援と技術教育を融合する学科編成

日本工業大学 駒場高等学校
教頭　真　金　秀　雄

本校は、実践的な技術教育を柱にした工業科と平成20年度から設置した普通科からなる高等学校で今年創立105年を迎えます。昭和42年本校が母体となって日本工業大学を設立（埼玉県宮代キャンパス）、付属中学・高校及び大学・大学院を有する学園を形成しています。

1．大学進学に具体的な支援策をもつ工業学科の設置

少子化や大学入試制度の多様化も手伝って四年制大学への間口が大幅に広がっていることから、本校の工業科における卒業後の進路も多様化が進んでいます。この傾向は東京のような都市部ほど顕著になっており、本校においても併設大学への進学はもちろん他大学への進学を志望する生徒も年々増加している一方で就職希望者は全体の3％にすぎないのが現状です。

このように上級学校への進学志向が高まる環境のなか、これからの工業科にも高等教育で必要とされる学力の定着とこれからの産業を支える人材育成のための理想的な技術教育の両立が望まれます。本校では、既存の3学科【機械科・建築科・電子情報システム科】に加え、平成17年4月全員が“大学進学を目標にした新しいスタイルの工業科”として【理数工学科】と【国際工学科】を設置して工業系の学科を編成しています。

【理数工学科】の特長

●工学技術のベースとなる数学、理科や英語などの基幹教科の学習を3年間しっかりカリキュラム上に編成。

●工業専門科目は体験学習を重視して24単位確保、幅広い専門分野の学習により「工学基礎力」の育成を目標。

【国際工学科】の特長

●英語教育に29単位を配当（カナダでの語学留学4単位を含む）して、カナダ州立大学をはじめ幅広い分野の大学進学を目指す。

●「工芸」「デザイン」「情報技術」など新しい分野の専門教育をカリキュラム上に配置。

【学科増設に伴う新しい取組み】

●特別設定時間の活用

授業単位時間を45分にすることで、7時間目以降に特別設定時間を設け、「大学進学支援」「資格取得支援」「ものつくり支援」「就職支援」などのプロジェクトを発足して生徒一人ひとりの自己目標の達成に具体的に支援する態勢を強化。

【女子教育】への取組み

平成18年度より理数工学科、国際工学科を共学化にして医療、バイオなど産業分野で活躍を期待される女子への支援を開始。

2．おわりに

本校は平成20年度より普通科3コース【特進コース、理数特進コース、総合進学コース】を新設して、大学進学への道筋をさらに強化しました。

とくに【理数特進コース】は理工系大学受験学力の伸長と本校の専門教育をカリキュラムに反映することで本校らしい技術教養を備えた普通科となりました。生徒諸君の卒業後の進路の多様化とりわけ大学進学希望者が急増する中、高等教育での学習に充分な普通教科・科目の学力定着と“ものを創る技術体験・楽しさ体験”の有用性をいかにカリキュラムに融合、展開していくかが今後の専門高校を展望する上でも肝要だと思われます。

〈実践報告〉

青梅総合高校における体験活動を重視したキャリア教育の取り組み

東京都立青梅総合高等学校
全日制課程副校長　遠　山　裕　之

1. はじめに

本校は平成18年に開校した東京都では5番目の総合学科高校です。都内では唯一農業系高校を母体校とし、そこから引き継いだ農場や演習林等の施設資源を活用して、普通科の科目に加え農業、家庭科に関する専門科目や学校設定科目を数多く開講し、生徒の生きる力を培い、進路実現を図っています。

2. 特色ある教育活動

(1) 3年間を通したキャリア教育

総合学科推進部と進路指導部が中心となり、1年次の「産業社会と人間」から2・3年次の「総合的な学習の時間」(3年間5単位) を中心にキャリア教育・進路指導に取り組んでいます。1年次は、フレッシュマンキャンプで時間づくりに必要な考え方を学び、35の大学（平成24年度）に分かれてグループで調査を行うキャンパス訪問や履修指導、職業人講演等を通しライフプランの作成を行います。2・3年次は、読書レポート・グループ研究・新聞学習・小論文学習・卒業研究テーマ選定後を、研究室制の下で卒業研究を行い、卒業論文を作成します。これらの活動を通し生きていく力・技術を培います。

(2) レベルアップゼミによる組織的な学力向上

総合学科の特色を踏まえ、学校独自の学力観として「学ぼうとする力　学ぶ力　学んで得た力」を学力と定義付け、定期的な学力調査や少人数授業・習熟度授業、土・日の自習室利用、レベルアップゼミ等で組織的な学力向上を図っています。本校のレベルアップゼミは、補習・補講から日頃の授業時間ではできない体験講座・発展講座・検定試験・模試等様々な内容が実施され、土・日や長期休業中に年間100講座以上が開講されています。

(3) カントギムナジウムとの短期交換留学

平成22年に姉妹校協定を結び、平成23年度から交流事業を開始しました。①体験を通して本校の教育理念を実践し学ぶこと、②生徒の視野を広げ、友情を育て大きな夢をもたせることを目的に、交互に生徒を短期留学させることとしました。平成23年度は本校から11名を8月22日～29日にドイツへ派遣し、平成24年度は10月4日～11日にドイツから15名が来校します。短期交換留学は、初日は寡黙で消極的であった生徒が日を追うごとにコミュニケーションをとるようになり、帰国後も学習意欲、集中力を高め積極的な姿に変わりました。

(4) 食・農・自然・環境体験活動in小笠原

希望者による体験活動行事で、①25時間半にわたる船旅や海洋島での離島体験を通し、本土では体験できない視点を学び、自ら学ぶ意欲と新しいものを切り拓いていく創造性･意欲を育み、自主性･創造性･開拓の心を身に付ける。②自然体験・農業体験・奉仕体験・職場体験等の豊かな体験活動を通して、豊かな人間性と社会性を育むことを目的に8月に実施しています。父島では、亜熱帯農業センター見学と植樹体験、農園見学、また、エコ・ツーリズムについて理解を深め、都のレンジャーの仕事に同行して環境保護を体験したり、林野庁の森林保全活動について理解を深めたり、社会福祉協議会で慰霊祭・式典の片付けや戦跡清掃、タコノ葉細工で伝統工芸に触れ、郷土料理作りで地域の食文化を体験し、島民と交流します。今年も23名が参加予定です。

(5) 組織的な生活指導

全教員が一体となった生活指導により、生徒は落ち着いた学校生活を送っています。朝の校門指導では、服装・身だしなみや挨拶等の指導を徹底しています。これが生徒の学力の向上や特別活動の成果に結びついています。就職や進学をした卒業生からも、「実社会で大切なことを青総で学んだ。これからも続けてほしい。」との感想を多くもらっています。

3. おわりに

開校して7年目を迎え、教職員の人事異動もあるなか、スクールアイデンティティを全教職員に浸透させ、更に魅力的な総合学科を創る力につなげていくことが課題です。

シリーズ 専修学校に学んで ～在校生からのメッセージ～

マリールイズ美容専門学校　　2年　佐々木智央

私が、マリールイズ美容専門学校に入ろうと思ったのは、高校の担任の先生に、マリールイズの学校説明会を勧められたのがきっかけでした。そこで、初めて同系列の婚礼美容室の入っている目黒雅叙園での説明会に行きました。そこで、マリールイズの歴史の深さを感じました。また、「一に人格、二に技術」の理念に感動し、ここしかない！と思い、高校二年生の時点で進路として希望しました。その後、何度も体験入学に通ううちに本当に入学が待ち遠しくなりました。

入学してから、一年間は、とにかく美容の基礎を学びました。授業内容は、美容師としての技術はもちろん、社会に出てから必要な挨拶や礼儀、さらには、ファッションの歴史やデザインについてまで幅広く教わります。

人を美しくする「美容」という仕事は、ただ見た目だけを変える仕事ではありません。お客様自身の魅力を内面から引き出し、よりよい美容を提供していかなければなりません。私は、美容の奥深さに日々驚かされています。

毎日の学校生活は、忙しくも充実していて、本当に楽しいです。マリールイズの仲間はみんな向上心があって、日々切磋琢磨しながら技術と心を磨いています。全員と辛い事も嬉しい事も分かち合えるのは、少人数制のマリールイズだからこそです。そんな、深い絆で結ばれた仲間と出会えて私はとても幸せに思います。

美容師は、本当に素敵な職業だと私は思います。仕事内容は、厳しく、辛い事も沢山ありますが、人を心から美しく、笑顔にできる仕事は他にはないと思います。私の将来の夢は、美容を通じて、沢山の人に良い影響を与えられる存在になりたいです。

美容の専門学校はとても大変ですが。だからこそ時間を大切にしなければなりません。今しかできない事、将来を見据えてやっておく事。小さな事を大切にしっかり確実に積み重ねていく事が、何をするにもとても大切です。美容のプロとなる為に私はこれからもがんばって日々精進していきたいとおもいます。

シリーズ がんばる東京の産業界 （会員企業の紹介）

株式会社 鈴木塗装工務店

資本金：54,000千円　代表取締役：鈴木　守
東京都足立区柳原 2-30-14
TEL 03-3882-2828

＜創業＞

昭和 9 年 7 月1日　鈴木組塗装部を設立
昭和25年11月4日　法人組織に変更
㈱鈴木塗装工務店設立

＜従業員数、営業拠点＞

270人
本店…足立区
支店…札幌、仙台、静岡、名古屋、大阪、広島、九州
営業所…茨城、千葉、埼玉
事業所…ひたちなか、土浦、草加、豊橋、大府、滋賀、北九州

＜経営理念＞

連繋（れんけい）

「社員一人ひとりが、常に研鑽に励み、人のつながりを大切にして、お客様からの要望に応え、いつも満足を与え、信頼される会社として社会に貢献する」

＜主用営業品目＞

鋼構造物並びに建築物、コンクリート構造物の塗装及び防水工事

＜青年へのメッセージ＞

近年はパソコン、携帯電話などの普及により会話でのコミュニケーションを行うことが少なくなっている様に感じます。仕事の成果は一人だけで上げられるものではありません、多くの人と会話してお互いを理解しあえるよう心がけましょう。

平成24年度　新会員校の紹介

東京都立桜修館中等教育学校

〒152-0023　東京都目黒区八雲1-1-2
TEL 03-3723-9966　FAX 03-3723-9980

本校は、東京都教育委員会の都立高校改革推進計画に基づいて設置された都立中高一貫教育校のうち、目黒地区に置かれた中等教育学校です。平成18年4月に開校して7年目を迎えました。校名は、母体校である東京都立大学附属高等学校の前身、東京府立高等學校の校歌・校章に由来しています。進学を重視した中高一貫の6年制学校で、全日制普通科のみの男女共学、定員は160人で、二学期制を採用しています。小学6年生を対象に適性検査を実施し、入学候補者を決めていますので、中学生からの募集はありません。全都から募集していますが、目黒区、世田谷区、大田区、品川区に在住する生徒が大半を占めています。また1年生から6年生まで制服となっていますが、そのうち上着は深緑色のブレザーで、本校が置かれている八雲が丘の木々をイメージしたものです。

教育方針は、「6年間の一貫した教育活動の中で、世界の中の日本人としてのアイデンティティをもって国際社会を担う人材を育成する。」としています。そのため、英語以外に第二外国語として、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ハングルを自由選択科目で学ぶことができるようにしています。特色ある教育活動としては、前期課程（中学段階）で、「国語で論理を学ぶ」「数学で論理を学ぶ」という授業を行っています。これは、文章や相手の話を理解して、自分の考えを筋道立てて表現する能力を身に付けたり、数式やグラフ、図形を使って論理的に説明するというものです。

今年3月に一期生150名が初めて卒業しました。進路結果は、東京大学4名、東京工業大学4名、一橋大学2名、福島県立医大1名、早大47名、慶応大16名などでした。都内の公立中高一貫教育校としては、最もよい成績を挙げることができました。今後とも都民の期待に応えられるような学校づくりを進めていきます。本校に対するご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

東京都立両国高等学校・附属中学校

〒130-0022　東京都墨田区江東橋1-7-14
TEL 03-3631-1878　FAX 03-3846-6682

両国高校は今年111年目を迎える都立屈指の伝統校です。平成18年にはその伝統を受け継ぎつつ、中高一貫校となりました。中学で3クラス、高校になると2クラス増える併設型で、高校のクラスは混合されて中入高入の区別なく授業は行われています。中高ともに伝統とする「自律自修」のもと、高い学力と広く深い教養・知性を養うことを目指します。

6年間の中で、中学では全教科の基礎基本をしっかりと学び、それぞれの夢を叶えるための基礎固めをします。国語の授業だけでなく、多くの授業で「言語能力」を育成し、オールイングリッシュの授業で英語によるコミュニケーション能力を鍛え、観察・実験を最大限に取り入れた理科教育を充実させています。また、「志学」によってキャリア教育にも力を入れています。そして高校では国公立大学・難関私大に現役合格できるためのカリキュラム設計がとられ、2年の段階までの緩やかな文理系分け、国立難関大を想定したオリジナル問題による実力テストなどの進学指導のもとで、ほとんどの生徒は国公立大学を目指します。また、授業時数の確保のために中高ともに月2回ほどの土曜授業も行っています。

本校の教育の特徴を一言で表現するならば、「授業で勝負、授業が一番」ということです。これは当たり前と思われがちですが、50分のなかで、質の高い内容を一分一秒たりとも無駄にしないで授業を展開する先生とそれに真剣に取り組む生徒の様子は、他の学校ではなかなか見られない光景です。これが昔から「両国は予備校いらず」と言われ、卒業生の三割が国公立大に現役合格する所以です。地味なイメージの強い学校ですが、「紅旗征戎わが事にあらず」といった構えで勉学に精進する姿勢は創立以来変わらない本校の伝統です。

平成24年度　総会・功労企業表彰 報告

平成24年度総会・功労企業表彰及び講演会が6月8日（金）午後2時から、BIZ新宿（新宿区立産業会館）において開催されました。

来賓として（財）産業教育振興中央会専務理事の中山淑廣様、東京都公立中学校長会副会長の室賀薫様（練馬区立光が丘第三中学校長）をお迎えしました。

開会にあたり、西澤宏繁会長から「都産振は、産業界、各学校、都教委の三者が協力して職業関連教育の充実を図ろうとする組織である。普通科偏重の世だが、なんとしても産業教育を推進して行く。当会では会報・会誌の発行、また作文コンクールを通じて夢や希望を語り、暗いニュースばかりの世の中ですが、明日の日本を背負う生徒を育てて行きたい。地道にそしてささやかではあるが産業教育の活動を推進していきたいと思う。この総会で忌憚のないご意見等を頂き、会の充実発展に頑張っていきたい。」との挨拶がありました。

引き続き、常任理事の直原裕都立学校教育部長からは次のような挨拶がありました。

「本会は、これまで半世紀以上にわたる活動を通じて、大きな成果を挙げてきた、これはお集まりの皆様のご尽力によるものであり、感謝申し上げる。都教委は平成9年度以降、科学技術の進歩・産業構造の変化・国際化や情報化等の進展に対応し、「科学技術高校」「産業高校」「ビジネスコミュニケーション科」など、専門高校を設置し都民の多様なニーズに応えてきた。しかし近年、わが国の社会経済状況はグローバル化などにより益々厳しさを増し、若者の意識も変容するなど状況は変化している。この様な状況を踏まえ、本年2月、都教委では10年間の長期計画である「都立高校改革推進計画」を改めて策定し、「生徒一人ひとりの潜在能力を顕在化して伸ばす教育の実践」を基本的な考え方として、施策を展開していくこととした。本日の総会でご意見・ご指導をいただければ幸いです。」

来賓を代表して中山淑廣様より挨拶を頂いた後、西澤会長を議長として、事務局から6議案が提案され、審議の結果、各議案とも原案どおり承認されました。

（総会資料等承認議案は会員企業・学校等に配布済みです。）

本年度の役員を紹介いたします。

会　　長	西澤　宏繁	（留任）
副 会 長	久保村昭衞	（留任）
同	金子　昌男	（留任）
同	石井　末勝	（新任） （東京都立六郷工科高等学校長）
理 事 長	大原　正行	（留任）
常任理事	直原　　裕	（留任）
同	藤本　龍夫	（留任）

総会終了後、産業界会員功労者（永年会員）の表彰が行われました。

本年度の表彰企業は次の1社でした。

○株式会社 川邑研究所（目黒区）

出席された、代表取締役　川邑正広氏に、西澤会長から感謝状と記念品が手渡されました。また川邑氏から研究所の業務や取り扱い製品等の紹介と感謝の意が述べられました。

川邑正弘氏（右）と西澤会長

新会員 紹介

○㈱ツバサ
代表取締役社長　　芦澤　唯志
〒125-0032　葛飾区水元4-6-19
TEL　03-5699-5283
FAX　03-3627-7283

○日の丸自動車興業株式会社
代表取締役　　富田　浩安
〒112-0004　文京区後楽1-1-8
TEL　03-3815-1811
FAX　03-3815-3820

○田中設計事務所
代表　　田中　正二
〒350-1304　狭山市狭山台2-25-12
TEL　04-2958-4698
FAX　04-2958-9729

○株式会社　箸勝本店
代表取締役社長　　山本　権之兵衛
〒101-0021　千代田区外神田3-1-15
TEL　03-3251-0840
FAX　03-3251-4084

平成24年度「作文コンクール」募集のご案内

【作文の内容】

○中学校の技術・家庭科、高等学校及専修学校等における専門教科の学習を通して体験したことについて述べたもの。

○勤労に係わる体験的な学習によって学びえた人生観　職業観や、自己の将来に対する考え方や心構え等について述べたもの。

【作文の題名及びテーマ】

作文の「題名」を決め、内容に合った「テーマ」を①～⑩より選択してください。

①技術・家庭科の授業を通して学び得たこと
②高等学区等における専門教科の学習を通して学び得たこと
③インターンシップ（就業体験）や現場実習等によって学び得たこと
④職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと
⑤つくることの喜び、ものづくりの喜び
⑥働くことの喜び
⑦学習に対する心構え
⑧私の生きがい
⑨私の進路、将来の夢
⑩私の職業観

【応募資格】

○東京都内の中学校に在籍する生徒

○東京都内の高等学校、専修学校、高等専門学校及び短期大学等に在籍し、産業教育に関する教科・科目を履修している生徒及び学生

【応募期限】

平成24年9月14日

【応募方法】

○A4判の400字詰め原稿用紙（20字×20行・縦書き）を使用する。ワープロ原稿も可

○原稿用紙の1枚目第1行に「題名」を第2行目に氏名を書く。（校名、学科名、学年等は書かない）

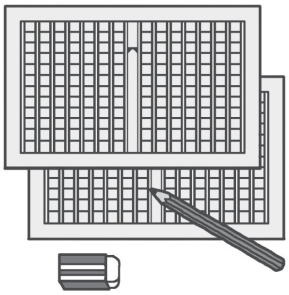
○原稿枚数は、4枚以上6枚以内とする。（枚数等に過不足がある場合は選外となるので注意）

○応募者数は校内において厳選し、1校10名以内とする。

【送付先・問合せ先】

東京都産業教育振興会
電話　03（5320）6729

※詳しくは各学校に配布してある「募集要項」または、東京都産業教育振興会ホームページをご覧ください。



「第22回 全国産業教育フェア岡山大会」のお知らせ

○期　　日：平成24年11月10日（土）～11日（日）
○会　　場：岡山県総合グランド体育館（桃太郎アリーナ）他
○開催内容：①岡山県総合グランド体育館（桃太郎アリーナ）
式典、発表（研究発表、体験発表、ファッションショー等）
作品展示（知的財産に関する創造力・実践力開発推進事業成果発表
専門高校、特別支援学校、企業、大学、短大、専門学校等）
体験コーナー（キッズビジネスタウン、専門高校等）
展示即売（学校生産物等）
②岡山武道館
ロボット競技会
③岡山商科大学附属高等学校
フラワーアレンジメントコンテスト
知的財産に関する創造力・実践力開発推進事業成果発表会

平成24年度「わくわく どきどき 夏休み工作スタジオ」のご案内

小・中学生にものづくりの面白さや達成感を体験してもらい、将来のものづくり産業を支える人材を早期から育成することをねらいとして今年も実施されます。
○主　催：東京都教育委員会
○対　象：小学生・中学生対象講座、小学生対象親子ものづくり教室
○申込み：事前に往復ハガキで申し込む。
○参加費：講座により 1,000 ～ 2,500 円かかります。
○会場校と問合せ先

	会　場　校	問い合わせ
1	都立葛西工業高校	03-3653-4111
2	都立墨田工業高校	03-3631-4928
3	都立科学技術高校	03-5609-0227
4	都立蔵前工業高校	03-3862-4488
5	都立荒川工業高校	03-3802-1178
6	都立足立工業高校	03-3899-1196
7	都立工芸高校	03-3814-8755
8	都立六郷工科高校	03-3737-6565
9	都立北豊島工業高校	03-3963-4331
10	都立中野工業高校	03-3385-7445

	会　場　校	問い合わせ
11	都立練馬工業高校	03-3932-9251
12	都立多摩工業高校	042-551-3435
13	都立杉並工業高校	03-3394-2471
14	都立多摩科学技術高校	042-381-4164
15	都立田無工業高校	042-464-2225
16	都立八王子桑志高校	042-663-5970
17	都立総合工科高校	03-3483-0204
18	都立府中工業高校	042-362-7237
19	都立町田工業高校	042-791-1035

※講座の詳しい内容については、各高校もしくは「わくわくどきどき夏休み工作スタジオ」係（℡ 03-3342-8829）にお問合せください。

東京都産業教育振興会　ホームページアドレス
http://www.tosanshin.org/

事務局より

○平成24年度「会報」第142号をお届けいたします。会報の編集、発行に際してご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。
○東京都の産業教育をさらに飛躍させるために活動するとともに、情報等をお知らせしています。会員の皆様からのご感想、ご意見等をお寄せください。

発行　東京都産業教育振興会
〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部
高等学校教育課内
電話　03-5320-6729
FAX　03-5388-1727
印刷　株式会社小薬印刷所

再生紙を使用しています